

健康メモ

最近のC型慢性肝炎治療

広島市医師会理事
古川医院副院長

大谷 博正

C型慢性肝炎は、最近、インターフェロンを含めた治療が進歩して、格段の



治療成績の進歩を遂げてきております。最近まで、日本人に多いIb型高ウイルス量の方の治療は困難を極め、高価なインターフェロンを使用し、幾多の副作用と戦いながら治療をして、惨憺たる成績（一割程度有効）でありました。しかしリビリンという併用薬の出現で治療成績の向上（四割程度有効）が見られ、

さらにインターフェロン自体もペグインターフェロンとなってそれまで毎日とか隔日に注射を打つ必要があったのが、一週間に一度の注射ですむようになり、一年間の治療継続で飛躍的に有効率も増してきました（リビリンと併用で六割程度有効）。2a型など、より短い期間でインターフェロン治療の有効性の高い方もいらっしゃるようです（八〜九割有効）。これらの治療法は（インターフェロンやりバビリンによる）副作用を含め、以前とは比べものにならないほど、それぞれの病態による治療法が確立されてきたことによると考えられます。特に女性は年齢による有効率の違いが著明であり、若いほど成績が良く五〇歳以降は急激に有効率が落ちます。男性でも高血圧や糖尿病の合併症が高齢者ほど増えるためできるだけ早く治療することが望ましくはあります。そのような中、インタ

ーフェロンを使用してはいけないうつ傾向のある方や、精神的に不安定な方は、無理に治療にはいると、自殺をしたり、錯乱状態になったりと、とんでもないことになってしまいます。また、糖尿病や高血圧で眼底出血を起こしそうな方は失明のおそれもあり、事前に眼科受診は必須です。肝臓専門医の下で慎重に治療を行えば治療成績も良好となり安全に治療ができるわけです。また最近のデータでは、より長く治療を行うほど有効率が高いことも分かっています。県の支援も始まっており、経済面での問題が改善することが考えられ、C型肝炎、肝臓の発症のよ